

2018年（平成30年）3月8日

---

---

放送人権委員会決定 第67号  
「沖縄の基地反対運動特集に対する申立て」  
— 勸 告 —

---

---

放送倫理・番組向上機構 [BPO]

放送と人権等権利に関する委員会（放送人権委員会）

# 「沖縄の基地反対運動特集に対する申立て」に関する 委員会決定 — 勸 告 —

申立人 辛 淑玉

被申立人 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX）

苦情の対象となった番組 『ニュース女子』

放送日時 2017年1月2日（月）22時から23時のうち 冒頭16分  
2017年1月9日（月）22時から23時のうち 冒頭 7分

【決定の概要】	2 ページ
I 事案の内容と経緯	4 ページ
1. 本件放送内容と申立てに至る経緯	
2. 論点	
II 委員会の判断	6 ページ
1. はじめに	
2. 本件放送は申立人の名誉を毀損したか	
3. 放送倫理上の問題について	
III 結論	23 ページ
IV 放送概要	24 ページ
V 申立人の主張と被申立人の答弁	42 ページ
VI 申立ての経緯および審理経過	48 ページ

## 【決定の概要】

TOKYO MXは2017年1月2日、『ニュース女子』で沖縄の基地問題を取り上げ、1月9日の同番組では1月2日の放送に対する視聴者からの反響について冒頭で取り上げる放送をした。『ニュース女子』は「持込番組」であり、TOKYO MXは企画、制作に関わっていないが、「持込番組」であっても放送局が放送責任を負うことは当然であり、TOKYO MXもこれを争っていない。

この放送について申立人は、「高江でヘリパッドの建設に反対する住民を『テロリスト』『犯罪者』とし、申立人がテロ行為、犯罪行為の『黒幕』であるとの誤った情報を視聴者に故意に摘示した。『テロリスト』『犯罪者』といわれた人間は、当然のごとく社会から排除されるべき標的とされる。本放送によって〈排除する敵〉とされた申立人は平穏な社会生活を奪われたのである」などとしたうえ、そのように描かれた基地反対運動の「黒幕」であり「日当5万円」を支給しているものとされた「申立人の名誉の侵害について主に」問題とするなどと訴え、委員会に申立書を提出した。

これに対しTOKYO MXは、1月2日の放送は、申立人が「のりこえねっと」を主宰する者で、現在は沖縄の基地問題にも取り組んでいるという事実を摘示するものに過ぎず、これらの事実摘示が、直ちに申立人の社会的評価を低下させるものではなく、また、申立人が基地反対運動の「黒幕である」とか、基地反対運動参加者に「日当」を出しているとの内容ではないし、仮にそのような内容であり、それが社会的評価を低下させるとしても、公共性のあるテーマについて公益目的で行われた放送で、その内容は真実であるから名誉毀損にはあたらない、などと反論した。

委員会は、申立てを受けて審理し決定に至った。委員会決定の概要は、以下のとおりである。

1月2日の放送は、前半のVTR部分と後半のスタジオトーク部分からなるが、トークはVTRの内容をもとに展開されており、両者を一体不可分のものとして審理した。VTR部分では基地反対運動が過激で犯罪行為を繰り返すものと描かれており、これを受けてのトーク部分では申立人が関わる「のりこえねっと」のチラシに申立人の名前が記載されていることに言及しつつ、申立人が日当を基地反対運動参加者に支給していると受け取る余地がある出演者の発言やテロップ、ナレーションが重ねて流される。これらの放送内容を総合して見ると、本件放送は「申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的にやってきた人物でその『黒幕』である」、「申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の参加者に5万円の日当を出している」との事実を摘示しているものと認められ、それらは申立人の社会的評価を低下させるものと言える。この放送に公共性、公益性は認められるが、TOKYO MXによって、上記各事実の真実性は立証されておらず、申立人に対する名誉毀損の人権侵害が成立

する。

これに加えて、1月2日および1月9日放送の『ニュース女子』には以下の2点について放送倫理上の問題がある。第一に、「放送倫理基本綱領」は「意見の分かれている問題については、できる限り多くの角度から論点を明らかにし、公正を保持しなければならない」などとしているところ、1月2日の放送を見れば申立人への取材がなされていないことが明らかであるにもかかわらず、TOKYO MXは考査においてこれを問題としなかった。第二に、「日本民間放送連盟 放送基準」は「人種・民族・国民に関することを取り扱う時は、その感情を尊重しなければならない」などとしているところ、そのような配慮を欠いた1月2日および1月9日のいずれの放送についても、TOKYO MXは考査において問題としなかった。

委員会は、TOKYO MXに対し、本決定を真摯に受け止めた上で、本決定の主旨を放送するとともに、人権に関する「放送倫理基本綱領」や「日本民間放送連盟 放送基準」の規定を順守し、考査を含めた放送のあり方について局内で十分に検討し、再発防止に一層の努力を重ねるよう勧告する。

# I 事案の内容と経緯

## 1. 本件放送内容と申立てに至る経緯

東京メトロポリタンテレビジョン（TOKYO MX）は2017年1月2日放送の情報バラエティー番組『ニュース女子』で、沖縄県東村高江地区の米軍ヘリパッド建設反対運動を特集した。軍事ジャーナリストが沖縄を訪れレポートしたVTRを放送し、その後のスタジオでは出演者によるトークを展開した。また、翌週9日放送の『ニュース女子』の冒頭では、この特集に対するネット上の反響を紹介した。

これらの放送で取り上げられた人権団体「のりこえねっと」共同代表の辛淑玉氏は、「事実と異なる虚偽情報」と在日韓国人である辛氏に対する「人種差別発言」により名誉を毀損された等とする抗議文（1月20日付）をTOKYO MXに送付した。

その後、辛氏は1月27日付で申立書を委員会に提出。「本番組は、ヘリパッドの建設に反対する住民を『テロリスト』『犯罪者』とし、申立人がテロ行為、犯罪行為の『黒幕』であるとの誤った情報を視聴者に故意に摘示した」とし、申立人について、「あたかも『テロリスト』への資金を供与しているかのような情報を摘示し、また、申立人が外国人であることを、ことさらに強調して、不法な行為をする『韓国人』の一部であるかのような人種差別を扇動するものであった。申立人の名誉を毀損する内容であることは明らかである」と主張した。さらに、「本番組は、徹頭徹尾、何ら事実に基づかず、事実確認のための最低限の取材も怠ったまま」放送したとして、放送倫理上の問題を指摘した。そして、TOKYO MXに対し『ニュース女子』での訂正放送と謝罪、第三者機関による検証と報道番組での結果報告等を求めた。

申立人とTOKYO MXは、委員会事務局の要請に応じて代理人同士が話し合いによる解決を模索したが、不調に終わり、申立人側からは4月12日、改めて委員会の審理を要望する意思が事務局に伝えられた。

これを受けてTOKYO MXは4月27日、本件申立てに関する「経緯と見解」書面を委員会に提出。その中で、「本番組は、沖縄県東村高江地区のヘリパッド建設反対運動が、過激な活動によって地元の住民の生活に大きな支障を生じさせている現状等、沖縄基地問題において、これまで他のメディアで紹介されることが少なかった『声』を現地に赴いて取材し、伝えるという意図で企画されたものであると承知している」と放送の趣旨を説明し、放送内容は「申立人が主張する内容を摘示するものでも、申立人の社会的評価を低下させるものでなく、申立人が主張する名誉毀損は成立しないものとする」と反論した。

TOKYO MXは、本件番組は自社制作番組ではなく、スポンサー側で制作費を出し、制作会社が企画、制作を行い、電波料も別途支払われる、いわゆる「持込番組」

に該当するが、「放送責任が当社にあることは承知している」と述べている。

委員会は5月16日の第247回委員会で、委員会運営規則第5条（苦情の取り扱い基準）に照らし、本件申立ては審理要件を満たしていると判断し、審理入りすることを決めた。

## 2. 論点

### （1）申立人に対する名誉毀損の成否

- ① 申立人の名誉を毀損する事実摘示の有無
- ② 本件放送における公共性・公益目的の有無および公共性・公益目的が認められた場合の真実性、相当性の有無

### （2）放送倫理上の問題の有無

- ① 名誉毀損との関係における放送倫理上の問題の有無
- ② 公正・公平との関係における放送倫理上の問題の有無

## II 委員会の判断

### 1. はじめに

#### (1) 放送人権委員会の審理対象

本件は、2017年1月2日および1月9日にTOKYO MXで放送された『ニュース女子』に関するものである。

委員会は、申立てを受け、放送番組によって個人の名誉・信用、プライバシー・肖像権等が侵害されたか否か、ならびにそれに係る放送倫理上の問題を審理することを目的としている（運営規則第5条第1項第1号）。したがって、委員会が以下で検討するのは、本件『ニュース女子』が申立人の人権を侵害したかどうかと、それに係る放送倫理上の問題である。

#### (2) 本件申立てに係る放送内容

申立人が人権を侵害されたと主張するのは1月2日および1月9日の放送であるが、申立人について直接言及されているのは1月2日の放送であるので、以下では主に1月2日の放送（以下、「本件放送」）を取り上げる。

1月2日の放送の内容は、二つの部分からなる。前半部分は、沖縄の基地反対運動（以下、「基地反対運動」）に関する取材VTR（以下、「VTR部分」）で、後半部分はそれを受けてのスタジオトーク（以下、「スタジオトーク部分」）である。そのうち申立人の主張に係る部分は、以下の内容である。

#### ア VTR部分

現地レポートの冒頭、「いきなり、デモ発見」とのナレーションに、軍事ジャーナリストの井上和彦氏が「反対運動の連中がですね、カメラ向けてるとですね、あいつだあいつだみたいな感じでちょっとこっちを見ています。この辺の運動家たちが襲撃をしに来ると言うことを言っているんですよね」とコメントし、「近く行く？危ない、これ近づいたら危ない、危ない」として井上氏を制止する同行スタッフの音声が聞こえる。

次の場面は、普天間基地。井上氏が「ここで反対運動をやっている人たち、土日お休みのようなんですよ。週休2日のようですね」とコメントする際に「週休2日」とのテロップが付されたり、「次の朝、ちゃんと出勤していた反対派の皆さん、お疲れ様です」とのナレーションとともに、「きちんと月曜から出勤」とのテロップが付され、井上氏が「この辺の反対運動の人達がどうやら高江のヘリパッド建設地の方に集中投入されている」とコメントする。

その後場面は名護市に変わり、井上氏が「二見杉田トンネルの手前までやってきた

んですけれども」、「足止めを食っているという状況なんですよ」とコメントし、「トンネルの先がヘリパッド移設現場」、「当日高江ヘリパッド移設現場は過激デモで危険な為ロケ中止の要請が…」、「井上さんにはロケを断念してもらうことに…」とのテロップや、「反対派の暴力行為により、地元の住民でさえ高江に近寄れない状況」とか「警察でも手に負えない高江ヘリパッド反対デモ運動」とのナレーションが流れる。

これに地元住民へのインタビューが続く。井上氏が「救急車も止めたという話もありますが本当ですか？」と質問する場面では「過激派が救急車も止めた？」とのテロップが同時に流れ、「それはあります」との答えに対し、井上氏が「テロリストみたい」とコメントすると、地元住民が「テロリストと言っても全然大げさじゃないと思います」と応じた後、「なぜ、後先考えず犯罪行為を繰り返すのか」とのナレーションと「なぜ犯罪行為を犯すのだろうか？」とのテロップが流れる。

以上のように描かれた基地反対運動について、「その裏には信じられないからくりがあった」とのナレーションと、「そこには報道されない真実が！！」とのテロップが流れ、基地反対運動の参加者や背景へと話題が移行する。

画面には地元のラジオDJ、ボギー手登根氏が持ってきたというチラシ、「ホットケナイ、高江。ないちゃ〜大作戦会議！全員集合 2016年9月9日」が映し出され、井上氏が「連合会館の2階大会議室で、東京で配られていたんです。びっくりしたのがね、ここに韓国の方ですよ、確かね」、「びっくりしたのが、5万円あげますって書いてあるんです」とコメントする。「さらにこんなものまでが」とのナレーションが流れ、手登根氏が「これ実は、普天間基地の周辺で見つかった茶封筒なんです。光弘という名前と、2万円という金額が書かれています」と発言、そこには「反対派は日当を貰っている！？」とのテロップが流れる。そして、「これが事実なら、反対派デモの人達は何らかの組織に雇われているのか」とのナレーションが続き、「反対派の人達は雇われている！？」とのテロップが流れる。

## イ スタジオトーク部分

VTR部分を受けて、「マスコミの報道しない自由のせいで隠された真実を教えてください」というナレーションとテロップが流され、以下のようなスタジオトーク部分が展開される。

基地反対運動について「そのボスは日本の方ではないってことですか」との質問に対し、井上氏が「わかりません。とにかく韓国人はいるわ、中国人はいるわ、という状況になっている。だから何でこんな奴らが反対運動をやっているのかというので、地元の人には怒り心頭になっている」などと、反対運動は沖縄県民ではなく外国人が深く関わっている旨の発言が続く。その後、VTR部分において言及された「韓国の方ですよ」に当てはまる申立人について、ジャーナリストの須田慎一郎氏が「『の

りこえねっと』の辛さんの名前が書かれたビラがあったじゃないですか。この方々というのとは、反原発、反ヘイトスピーチなどを職業的にずーっとやってきて、今沖縄に行っている」、経済評論家の上念司氏が『「スキマ産業」です、いわゆるね。何でもいいんです、盛り上がれば』などと発言している。

その直後に、VTR部分に登場した5万円について、「あの交通費5万円は財源はどこなんですか」、「これは誰が出しているの」との質問があり、これに対し井上氏が「本当にわからないんですよ。『のりこえねっと』というところに、書いてあって、お茶の水でやっているわけですよ」と答え、「沖縄・高江ヘリパッド問題反対運動を煽動する黒幕の正体は？」とのテロップが表示される。

CMを挟んで他の話題を短時間取り上げたのち、再びMCの長谷川幸洋氏が「ちょっと聞きたいのは、お金ですよ。5万円日当を出すなんて。これは誰が出しているの」と発言して「財源」の話題に戻る。そして、井上氏がVTR部分で紹介されたチラシを出しながら、「本当にわからないんですよ。『のりこえねっと』というところに書いてあって、連合会館で、お茶の水でやっているわけですよ。だから、東京から、そういう反対派の人達、さあ一緒にみんなおいで5万円あげるからということで、格安の、格安のチケットで行けば、そりゃ行けますよね」と発言している。その直後に須田氏が「辛さんっていうのは在日韓国・朝鮮人の差別ということに関して戦ってきた中ではカリスマなんです。ピカイチなんです。お金がガンガンガン集まってくる」と申立人に言及し、その後、「韓国がそうやって沖縄にこだわるのは何で」との質問に対して、上念氏が「親北派ですから。韓国の中にも北朝鮮が大好きな人がいる」と発言している。

### (3) 申立人の主張

申立人は、本件放送について「高江でヘリパッドの建設に反対する住民を『テロリスト』『犯罪者』とし、申立人がテロ行為、犯罪行為の『黒幕』であるとの誤った情報を視聴者に故意に摘示した。『テロリスト』『犯罪者』といわれた人間は、当然のごとく社会から排除されるべき標的とされる。本放送によって〈排除する敵〉とされた申立人は平穏な社会生活を奪われたのである。本番組が犯した申立人に対する人権侵害は、多大なものである」と主張する。そのうえで、「本申立てにおいては申立人の名誉の侵害について主に」問題とするとして、具体的には、以下①～④の主張をしている。

- ① 申立人が反原発、反ヘイトスピーチ、基地反対運動を職業的にやってきた人物で、基地反対運動を煽動している「黒幕」だとの事実を断定している。
- ② 金銭で動機付けられた基地反対運動参加者に「日当」を出して雇っているのは申立人である。
- ③ 申立人は韓国人で親北派であることから基地反対運動を展開している。

④ 番組は、反対派が救急車を止めたとか、反対派が暴力を振るっているとか、振興予算が無法地帯に流れている等の事実を摘示し、反対派を「テロリスト」と表現しているのであるから、番組を見た視聴者は、基地反対運動に参加する反対派は犯罪を行っている犯罪者集団であるとの印象を持つのが当然である。

このように基地反対運動を過激で犯罪行為を繰り返すものと描いたうえ示された①②の事実は、申立人の社会的評価を低下させることが極めて明白である。また③の事実は、申立人が反対運動をする動機が純粋なものではなく政治的党派的なものであるとの印象を与えるものであるので、やはり申立人の社会的評価を低下させる。

#### (4) TOKYO MXの主張

これに対し、TOKYO MXは、以下のように反論している。

①について

「職業的」は、申立人が「のりこえねっと」を主宰する者で、反原発、反ヘイトスピーチの活動に積極的に、反復・継続して従事しており、現在は沖縄の基地問題等にも取り組んでいるという事実を摘示するものに過ぎず、これらの事実摘示が、直ちに申立人の社会的評価を低下させるものではない。本件放送に申立人が基地反対運動の「黒幕」であるとの内容は一切含まれていないし、仮に含まれていて、それが社会的評価を低下させるとしても、公共性のあるテーマについて公益目的で行われた放送で、その内容は真実であるから名誉毀損にはあたらない。

②について

本件放送では、一般視聴者は「のりこえねっと」という団体が5万円の交通費を支給するというチラシがあるが、その財源は不明であるという事実が摘示されているものと受け取るのが通常であって、申立人が基地反対運動参加者に「日当」を出して雇っているとの事実が摘示されているとの申立人の主張は認められない。仮に含まれていて、それが社会的評価を低下させるとしても、公共性のあるテーマについて公益目的で行われた放送で、その内容は真実であるから名誉毀損にはあたらない。

③について

発言者の一般論としての見解が述べられたものであって、申立人がそのような人物であるとは何ら摘示していない。

④について

申立人が問題視している「テロリスト」、「過激派」の表現は、高江のヘリパッドの建設反対運動には、一部強硬な手段がとられていることを伝える中で比喻として用いられているものであり、申立人について述べたものではないから、本件申立ての争点である申立人の名誉毀損の成否とは直接の関係がない。

## (5) 委員会の視点—VTR部分とスタジオトーク部分の関係—

TOKYO MXは、基地反対運動に関するVTR部分に申立人への直接の言及がないことを理由に、基地反対運動についての描き方は「本件申立の争点である申立人の名誉毀損の成否とは直接の関係がない」と主張する。

しかし、本件放送における基地反対運動の描き方がどのようなものであるかは、申立人が本件放送によって名誉を毀損されたと申し立てる上で重要な背景となっている。なぜなら、本件放送においては、基地反対運動が「過激デモで危険」、「警察でも手に負えない」、「犯罪行為を繰り返す」、「テロリスト」などという表現を用いて描かれており、それを前提に、そのような基地反対運動に対して、申立人が「職業的に」、「黒幕」として資金提供をしているとの事実を摘示したかが問題となるからである。

委員会は、番組前半で基地反対運動を描くVTR部分が放送され、これに続くスタジオトーク部分がVTR部分の内容をめぐって展開され、そこで申立人について触れられていることからすれば、両者を一体不可分のものとして審理すべきであると判断した。

## 2. 本件放送は申立人の名誉を毀損したか

以下では、申立人が主張する名誉毀損について、(1) 名誉を毀損する事実の摘示があったかどうか、(2) 本件放送に公共性・公益性が認められるか、(3) 摘示された事実が真実であるか、を順次検討する。

### (1) 申立人の名誉を毀損する事実の摘示があったか

本件放送における基地反対運動の描き方が、本件放送によって申立人の名誉が毀損されたかどうかを判断するうえで重要な背景となることはすでに指摘した。そこでまず、本件放送が基地反対運動についてどのような事実を摘示したかについて判断する。

1. (2) 本件申立てに係る放送内容で記したとおり、本件放送では、基地反対運動を、「過激デモで危険」、「警察でも手に負えない」、「犯罪行為を繰り返す」「テロリストと言っても全然大げさじゃない」などという表現を用いて描いた。これらの表現は、VTR部分における出演者のコメント、テロップ、ナレーションなどさまざまな形で示されたものであるが、本件放送はこれらの表現を用いて、基地反対運動を「過激で犯罪行為を繰り返す」ものとして描いたものであると言える。以下では、これを前提として検討する。

ア 申立人が過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的に行ってきた人物で、基地反対運動を扇動している「黒幕」だとの事実摘示がなされたとする申立人の主張について

本件放送におけるこの部分のテロップ表示では「反原発、反ヘイトスピーチ、基地建設反対など…職業的に行っている!？」と「!？」が付されている。しかしこのテロップとともに、須田氏は、申立人がさまざまな反対運動を「職業的にずーっとやってきて」と疑問形ではなく断定して発言しており、それを受けた上念氏も申立人の活動について『スキマ産業』です、いわゆるね。何でもいいんです、盛り上がれば」と指摘するなど、出演者の発言自体はいずれも断定調でなされている。これらの発言とともにテロップが表示される以上、両者を併せて、摘示された事実がどのようなものか判断されるべきことは当然である。テロップに「!？」を付せば会話の内容が疑問ないし疑惑の提示に変わり、事実の摘示に該当しないことになるわけではない。

次に、申立人が主張する、基地反対運動を扇動している「黒幕」だ、との点に係るスタジオトーク部分では、1.(2) 本件申立てに係る放送内容においてみたように、VTR部分で反対運動を「過激デモで危険」、「警察でも手に負えない」、「犯罪行為を繰り返す」、「テロリストと言っても全然大げさじゃない」などという表現を用いて描いたうえ、さらに、VTR部分にはなかった取材スタッフが遭遇したとされる危険な状況を紹介しながら、反対運動の危険性や犯罪性が改めて強調される。

すると、「そのボスは日本の方ではないってことですか」との質問があり、テロップに表示される「誰が何のために反対運動をしているのか」、「反対運動を煽動する黒幕の正体は？」へと話題が移り、この質問をきっかけに、基地反対運動と申立人が結びつけられることになる。

この点について、TOKYO MXは、「関係部分における放送の流れを正確にとらえれば」、申立人が「ヘリパッド基地反対運動を扇動している『黒幕』であるとの事実が摘示されているとは、到底言えない」と主張する。その理由としてTOKYO MXは以下のように主張する。

まず、後半の「黒幕」に関わる部分は、上記の須田氏の発言と上念氏の「スキマ産業」発言、そこに『のりこえねっと』“辛淑玉,は何者?”とのテロップが消えた後で、「あの交通費5万円は、財源はどこなんですか」との質問があり、長谷川氏が重ねて「これは誰が出してるの」と尋ね、井上氏が「本当にわからないんですよ」と答える場面からなるが、「黒幕の正体は？」のテロップは長谷川氏の「これは誰が出しているの」という質問の際に初めて表示されるから、「表示のタイミングからして申立人との結びつきは希薄」だと主張する。

さらに、TOKYO MXは、「黒幕の正体は？」というテロップが表示されている状態で「本当にわからないんですよ」という発言を聞けば、一般視聴者は「資金の提供者も『黒幕の正体』も分からないという意味内容を伝えているものと受け取るのが通常であって、上記一連の流れをもって申立人がヘリパッド基地反対運動を扇動している『黒幕』であるとの事実が摘示されているとは、到底言えない」と主張する。

しかしながら、一般視聴者は、場面ごとに放送内容を理解するのではなく、複数の場面の内容を番組の流れの中で理解するのであって、発言やテロップを細切れにして理解するわけではない。「本当にわからないんですよ」という井上氏の返答も、何がわからないのかは明確に特定されているわけではないし、「財源はどこなんですか」、「誰が出してるの」という上記の質問と重なったことで、ここでのトークが財源についてのものであると視聴者は受け取る。しかも、井上氏は「本当にわからないんですよ」と言いながら、それに続けて『『のりこえねっと』』というところに、書いてあって、お茶の水でやっているわけですよ」とつけ加えている。直前に『『のりこえねっと』』“辛淑玉”は何者?というテロップが出て、その後須田氏の『『のりこえねっと』』の辛さんの名前が書かれたビラがあったじゃないですか」という発言がなされていたことからすれば、申立人と「黒幕」の結びつきを一般視聴者に改めて想起させる流れとなっているのである。

番組でのやり取りや複数の場面は、上記に見たような一連の流れとして視聴者にメッセージとして伝わると考えられるから、たとえ「黒幕」テロップの部分において申立人の氏名に言及がなくても、一般視聴者は、申立人を念頭に置いて「黒幕の正体？」が論じられていると受け止めるものと考えられる。

上記の判断の仕方は、最高裁2003年10月16日「テレビ朝日所沢ダイオキシン報道事件」判決の判断とも合致する。同判例では「テレビジョン放送をされる報道番組においては、新聞記事等の場合と異なり、視聴者は、音声及び映像により次々と提供される情報を瞬時に理解することを余儀なくされるのであり、録画等の特別の方法を講じない限り、提供された情報の意味内容を十分に検討したり、再確認したりすることができないものであることからすると、当該報道番組により摘示された事実がどのようなものであるかという点については、当該報道番組の全体的な構成、これに登場した者の発言の内容や、画面に表示されたフリップやテロップ等の文字情報の内容を重視すべきことはもとより、映像の内容、効果音、ナレーション等の映像及び音声に係る情報の内容並びに放送内容全体から受ける印象等を総合的に考慮して、判断すべき」とされている。

なお、申立人の背後に外国人勢力などのさらなる「黒幕」が存在するとの指摘が本件放送によりなされたと解する余地もあるが、仮にそうであっても、背後に存在する「黒幕」による扇動ないし指示の流れに申立人が関わっていることに変わりはない。それゆえ、申立人自身を「黒幕」と摘示したと解する場合であれ、背後の存在を「黒幕」としたと解する場合であれ、後述する社会的評価の低下に関する判断に特段の違いはないから、以下では、この点の区別は特に行わずに論じる。

以上から、委員会は、本件放送により、「申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的にやってきた人物でその『黒幕』である」との事実摘示がなされたと判断する。

#### イ 金銭で動機付けられた過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動参加者に「日当」を出して雇っているのは申立人であるとの事実摘示がなされたとする申立人の主張について

申立人は、「あの交通費5万円は、財源はどこなんですか」という発言に続けて、「これ、本当にわからないんですよ。だからこれ、『のりこえねっと』というところに、まあ、これ書いてあって、お茶の水でやっているわけですよ」との発言があるから、「わからない」といいながら、すでに『『のりこえねっと』“辛淑玉”は何者?』というテロップがあったことからすれば、「交通費の5万円を出しているのは、申立人であることが視聴者にわかるようになっている」と主張する。

さらに申立人は、長谷川氏が「ちょっと聞きたいのは、お金ですよ」と問う発言に続けて、「反対運動の日当は誰が出している?」のテロップがあるから、その後の井上氏の「これ、本当にわからないんですよ。だからこれ、『のりこえねっと』というところに書いてあって、連合会館でお茶の水でやっているわけですよ。だから、東京から、そういう反対派の人達、さあ一緒に、みんなおいで5万円あげるからということで、格安の、格安のチケットで行けば、そりゃ行けますよね」という発言は、「全て申立人が反対派にお金を出しているとの事実を摘示していることは明白であり、これらの発言とテロップは、金銭で動機付けられた反対運動参加者に『日当』を出して雇っているのは申立人であるとの事実を摘示している」とも主張している。

これに対し、TOKYO MXは、「一般の視聴者からすれば、本番組では、『のりこえねっと』という団体が5万円の交通費を支給するというパンフレットがあるが、その財源は不明であるという事実を摘示しているものと受け取るのが通常であって、これにより『全て申立人が反対派にお金を出している』との事実や、金銭で動機付けられた反対運動参加者に『日当』を出して雇っているのは申立人であるとの事実が指摘されているとする申立人の主張は、論理の飛躍も甚だしい独自の解釈というほかになく、到底認められない」と反論している。

しかし、前項 アで認定したとおり、CM前のスタジオトーク部分では、「職業的」、「黒幕」として申立人について言及しており、CM後も、1分間ほど申立人と無関係のやりとりがあった後、長谷川氏が再度「ちょっと聞きたいのは、お金ですよ。5万円日当出すなんて。これは誰が出しているの」とCM前と同様の質問している。これは、それまでのやり取りによっても誰が基地反対運動の参加者に「日当」を払ってい

るのが不明のままなので、その点をはっきりさせたいという趣旨の質問と理解できる。そして、CM前には「交通費5万円」と発言されていたのが、この発言では「日当5万円」とされ、基地反対運動参加者が金銭的利益を得る目的で参加している印象をより強く生じさせる表現に変わっている。

この問いに対して井上氏は「本当にわからないんですよ」と言いながらも、「『のりこえねっと』というところに書いてあって、連合会館で、お茶の水でやっているわけですよ」と、前項アで指摘したように申立人に結びつく発言を行い、さらに須田氏は申立人の名前を挙げて「辛さんっていうのは在日韓国・朝鮮人の差別ということに関して戦ってきた中ではカリスマなんです。ピカイチなんです。お金がガンガンガン集まってくる」と応じている。両氏の発言にあわせ、画面には「反対運動の日当は誰が出している？」というテロップが表示され続け、井上氏の発言の際には、先ほどのテロップの下に「東京・お茶の水で集合、出発？」という小さなテロップが加わるが、須田氏の発言になると、それが消えて「『のりこえねっと』“辛淑玉”は差別と戦うスペシャリスト」というテロップに変わるのである。

このような出演者の発言のやりとりとテロップが、一連の流れとして視聴者にメッセージとして伝わるものであるから、委員会は、本件放送により、「申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の参加者に5万円の日当を出している」との事実摘示がなされたと判断する。

## (2) 事実の摘示の要約

委員会は、結論として本件放送がつぎのAおよびBの2つの事実を摘示していると判断した。

**摘示事実A** 申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的に行う人物でその黒幕である。

**摘示事実B** 申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の参加者に5万円の日当を出している。

1. (3) 申立人の主張の③で示したとおり、申立人は当初、申立人は韓国人で親北派であるから反対運動を展開しているとの指摘を申立人の名誉を毀損する事実の摘示であるとも主張していた。しかし、のちに行われたヒアリングで、申立人は、これらの摘示事実はいずれも真実ではないが、仮に名誉毀損の成立が認められることになれば、何らかの形で民族団体と関わる生活をしている子供たちがつらい目にあうことになるかもしれないから、この主張を撤回する旨を述べた。よって委員会はこの主張に

については判断しない。

### (3) 摘示事実Aおよび摘示事実Bによって申立人の社会的評価は低下したか

ア 摘示事実A前半の「職業的に行う」は申立人の社会的評価を低下させたか

TOKYO MXは、「職業的に行う」について、「申立人が『のりこえねっと』を主宰する者で、反原発、反ヘイトスピーチの活動に積極的に、反復・継続して従事しており、現在は沖縄の基地問題にも取り組んでいるという事実を摘示するものにすぎず、これらの事実摘示が、直ちに申立人の社会的評価を低下させるものではないというべきである」と主張する。

確かに、「職業的」という表現それ自体は、直ちに社会的評価を低下させるものではない。しかし、金銭的な報酬といった考え方とは無縁の市民運動に真摯に取り組んできた、という申立人にとって、それを「職業的」に取り組んでいるとされることが、名誉感情を損ねるものであることは想像に難くないし、そのような表現が申立人の社会的評価に悪影響を与える可能性を否定することもできない。

そもそも本件放送では、基地反対運動は、前記のとおりVTR部分で「過激デモで危険」、「警察でも手に負えない」、「犯罪行為を繰り返す」、「テロリストと言っても全然大げさじゃない」との表現を用いて過激で犯罪行為を繰り返すものとして描かれていた。ここでは、そのような反対運動について、申立人が職業的に取り組んでいるとの事実の摘示が名誉毀損に該当するかどうか問われているのであって、無色透明な反対運動に「積極的に、反復・継続して」、「職業的に」かかわっているとの摘示事実が名誉毀損に該当するかどうか問われているわけではない。また、「スキマ産業」という表現は、「既存の企業が進出していない、小規模な分野や市場で成り立つ産業。ニッチ産業」(広辞苑第七版)を意味するから、それ自体としては名誉毀損的な含意はないが、それに続けて「何でもいいんです、盛り上がれば」との発言がなされることによって、申立人が対象を問わず、過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動にまでも「職業的」に、すなわち金銭などの利益を得る目的で関わっているとの指摘につながる表現である。

以上から、過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動に「職業的に行う」という表現を耳にした一般視聴者は、申立人の基地反対運動との関わり方や姿勢に疑問を持ち、申立人に対する非難の感情を抱くであろうから、申立人の社会的評価を低下させる。

イ 摘示事実A後半の「黒幕である」は申立人の社会的評価を低下させたか

摘示事実A後半の「黒幕である」との事実の摘示についてであるが、申立人が、過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の「黒幕である」との指摘が、申立人の社会的評価を低下させるものであることは多言を要しない。

ウ 摘示事実Bの「5万円の日当を出している」は申立人の社会的評価を低下させたか

摘示事実Bは、上記のように過激で犯罪行為を繰り返すものとして描かれた基地反対運動に、申立人が金銭目的での参加を呼びかけ金銭を与えているとするもので、基地反対運動に対する申立人の関わり方に否定的な評価を生じさせるものであるから、申立人の社会的評価を低下させる。

以上から、摘示事実Aおよび摘示事実Bは、いずれも申立人の社会的評価を低下させる点で、申立人の名誉を毀損する事実摘示にあたる。

#### **(4) 本件放送の公共性・公益性**

本件放送が申立人の社会的評価を低下させるものであっても、放送によって摘示された事実が公共の利害に関わり（公共性）、かつ、主として公益目的によるものであって（公益性）、その事実の重要な部分が真実であるか（真実性）、または真実であると信じることに相当の理由があること（真実相当性）がTOKYO MXによって証明されれば、名誉毀損による人権侵害には当たらないこととなる。そこで、公共性・公益性を本項で、真実性を次項（5）で検討する。

公共性の判断は、表現の自由を保障するという観点から、実質的にその内容を検討するのではなく、摘示事実の性質を踏まえて客観的に判断すべきである（最高裁1981年4月16日「月刊ペン事件」判決）。このような観点からは、沖縄における基地反対運動を取り上げた点で、本件放送の関係部分には公共性があると言える。

公益目的については、TOKYO MXが主張する「他のメディアで紹介されることが少なかった『声』を現地に赴いて取材し、伝えるという意図で制作されたものである」点で、公益目的があると言える。

#### **(5) 本件放送において摘示された事実は真実であるか**

本件放送が公共性のあるテーマについて公益目的で行われたものであるとすると、TOKYO MXが摘示事実Aおよび摘示事実Bについて真実であることを証明することができれば、申立人に対する人権侵害は成立しない。

以下では各摘示事実に即して、TOKYO MXの主張を検討する。なお、TOKYO MXは、免責事由としての真実相当性については主張していないし、提出された資料やヒアリングの結果からも真実相当性の主張をうかがわせるものは存在しない。

まず、摘示事実Aと摘示事実Bに共通する「過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動」という事実についてその真実性を検討すると、基地反対運動が時に行き過ぎて警察による逮捕等の事態が生じることがあったとしても、そのことによって当然に、基

地反対運動そのものが過激で犯罪行為を繰り返すものであるということにはならない。この点については、TOKYO MX自身、「違法な暴力的行為を行う過激な集団を、沖縄県で基地反対運動を行うすべての方々と誤認させるような部分があったことについては遺憾と考えております」と述べて認めているところであり、また、他に格別真実性立証を行ってもいない。従って、この点について真実性の証明はなされていない。

以上を共通の前提として摘示事実の真実性を検討する。

#### ア 申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的に行う人物でその黒幕である、との摘示事実A前半の真実性

TOKYO MXは、過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を「職業的に行う人物」であるとの摘示事実については、社会的評価の低下がないと主張するだけで、真実であることの証明を行ってはおらず、この点真実性の証明はなされていない。

#### イ 申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動を職業的に行う人物でその黒幕である、との摘示事実A後半の真実性

##### (ア) TOKYO MXが主張する真実性の根拠

TOKYO MXは、「仮に百歩譲って、ここでの一連の表現により申立人がヘリパッド基地反対運動を扇動している『黒幕』であるとの事実が摘示されていると解したとしても、かかる事実は概ね真実である」と主張する。その根拠として、2016年9月9日に联合会館で開催された集会を主催者がインターネットを通じて配信した映像をダウンロードしたDVDを提出した。なお、申立人による当日の発言はTOKYO MX提出の再答弁書に引用されているので、以下にそれを記載する（下線および〔 〕内の補足は被申立人による）。

「・・・だから、現場で彼ら二人が20何台も〔工事関係車両を〕止めた。それでも1日止められるのが15分。でも、あと3人行ったらね、16分止められるかもしれないんです。もう1人行ったら20分止められるかもしれないんです。だから〔私は人をヘリパッド建設現場に〕送りたいんです。そして私たちは、私もねえ、はっきり言います。一生懸命これから稼ぎます。なぜならば私、もう体力無い。あとは若い子に死んでもらう。ね！いいですか？若い子にはお国のために頑張ってもらってというのは、稲田朋美も言っているわけですから。稲田が言うなら私も言おうじゃないかと。で、それから、爺さん婆さんたちはですね、向こうに行ったら、ただ座って止まって、何しろ嫌がらせをして、みんな捕まってください。でね、70〔歳〕以上がみんな捕まったら、

そしたらもう刑務所入れませんから、若い子が次頑張ってくれますので。ですから、何しろ山城博治はもうボロボロです。申し訳ないけどね。山城博治に言いました。ね、病気で死ぬな！ね、それから米兵に殺されるな！日本の警察に殺されるな！ね。お前が死ぬときは私が殺してやるからって言ってますから。だから…、彼はあそこに、今、いるだけでいい・・・」

以上の発言をもって、TOKYO MXは、「申立人は、高江のヘリパッド建設を少しだけでも遅らせるべく身を挺して工事関係車両を止めるような過激な反対運動を行ってくれる者をヘリパッド建設現場に送りたい旨、明確に述べているし、また、高齢者に対して、ヘリパッド建設現場に行っただけ座って嫌がらせをしてヘリパッド建設を妨害する等の反対運動を行うように積極的に働きかけていることは明白である。さらに、そのような妨害行為を行った者は捕まって刑務所に入ることを前提とした説明をしている以上、上記一連の申立人の発言は、多数の反対運動支持者らに対して違法行為を伴う活動を促すものであるし、一生懸命これから稼ぎます旨の発言は、そのような活動への資金を申立人自ら工面して提供する旨の表明に他ならない（なお、『のりこえねっと』が反対運動への参加者に対して5万円を払っている事実は、パンフレットに記載のとおり真実であり、申立人自身も認めている）。そうすると、結局『申立人が高江地区におけるヘリパッド建設に対する反対運動を扇動している黒幕である』、『申立人が反対派にお金を出している』といった内容は、いずれも真実であるというほかない」と主張している。

#### (イ) 過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の「黒幕である」、との摘示事実の真実性の検討

TOKYO MXは、「黒幕」という用語を、大辞林の定義に即して「自分は表面に出ず、かげにいて、計画したり人に指図したりして、影響力を行使する人」という意味であるとする。これを前提とすると、TOKYO MXが上記摘示事実の真実性を証明するためには、申立人が基地反対運動においてこの定義に該当する存在であることを証明する必要があることになる。

しかし、申立人の発言は、基地反対運動に参加する人が増えれば増えるほど建設を遅らせることができること、だから参加者を募りたいこと、年配者は「何しろ嫌がらせをして、みんな捕まってください。でね、70 [歳] 以上がみんな捕まったら、そしたらもう刑務所入れませんから」というものであるところ、これは上記意味における「黒幕」であることの裏付けにはならない。この発言は、基地反対運動への参加を呼びかけるものではあるが、申立人ないし「のりこえねっと」が「かげにいて」、基地反対運動を「計画」し、「指図」していることの裏付

けとまでは言えないからである。また、基地反対運動への参加の呼びかけは、一般的に共感や連帯感に基づくものもあるから、それが当然に基地反対運動の「黒幕」の裏付けになるわけでもない。

そして、申立人は、「ただ座って止まって、何しろ嫌がらせをして」と言っているだけであり、また、2.(5) 本件放送において摘示された事実は真実であるか、において述べたように、基地反対運動が時に行き過ぎて警察による逮捕等の事態が生じることがあったとしても、そのことによって当然に、基地反対運動そのものが過激で犯罪行為を繰り返すものであるということにはならないから、この発言をもって、TOKYO MXが主張するような「多数の反対運動支持者らに対して違法行為を伴う活動を促す」発言とまでいうことはできない。確かに、「みんな捕まってください」との一部不穏当な表現はあるが、発言全体の流れからすると、集会参加者を奮起させる目的でこのような表現になったという面も伺われるのであって、直ちに「刑務所に入ることを前提とした」呼びかけであるとまでは言えず、その部分を取り上げて、申立人の発言の主旨が過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動に参加して違法行為を行うよう促したものとまでは言えない。

以上より、2016年9月9日の集会における申立人の発言は、摘示事実A後半の、申立人が基地反対運動の「黒幕である」という摘示事実の真実性を証明するものとは言えない。

#### ウ 申立人は過激で犯罪行為を繰り返す基地反対運動の参加者に5万円の日当を出している、という摘示事実Bの真実性

TOKYO MXは、申立人が2016年9月9日の联合会館での集会において申立人が「私もねえ、はっきり言います。一生懸命これから稼ぎます。なぜならば私、もう体力無い」と発言している部分をとらえて、「多数の反対運動支持者らに対して違法行為を伴う活動を促すものであるし、一生懸命これから稼ぎます旨の発言は、そのような活動への資金を申立人自ら工面して提供する旨の表明に他ならない」と主張し、集会での申立人の発言をもって、摘示事実の真実性を裏付けることができると主張している。

しかしながら、申立人が「一生懸命これから稼ぐ」ことは「反対運動に日当5万円」を出すことを意味しないから、申立人の発言が、基地反対運動に対し「資金を申立人自ら工面して提供する旨」の表明とは言えない。確かに、「のりこえねっと」では、集会やチラシで呼びかけて、沖縄への交通費5万円を支給している。しかし、ヒアリングにおいて申立人にその財源を確認したところ、これは全て「のりこえねっと」への寄付で賄われているとのことであり、会計記録によれば寄付金の総額は

2016年11月時点で約80万円、それを利用して沖縄に向かった者は16名とのことであった。結局、チラシに「交通費」支給を記載したのも、実際に交通費を支給したのも「のりこえねっと」という団体なのである。団体としての「のりこえねっと」と申立人個人を同視することはできないから、5万円は申立人が負担したものとはいえない。

加えて、正確に言うならばチラシには「往復の飛行機代相当、5万円を支援します。あとは自力でがんばってください！」と記載されているのであり、沖縄への交通費相当額を支援するとしているのであるから、反対運動の対価として日当5万円を支給して、金銭的な動機で基地反対運動に参加させようとしているとはいえない。

すでに述べたとおり、基地反対運動が時に行き過ぎて警察による逮捕等の事態が生じることがあったとしても、そのことによって当然に、基地反対運動そのものが過激で犯罪行為を繰り返すものであるということにはならない。この点も併せて考えれば、チラシや申立人の発言は、上記ウの点について真実性を証明するものとは言えず、TOKYO MXによって申立人による支出であるとの証明がなされたとは言えない。

以上ア～ウとして検討してきたとおり、摘示事実Aおよび摘示事実Bのいずれについても、TOKYO MXによる真実性の証明はなく、委員会は名誉毀損が成立すると判断する。

### 3. 放送倫理上の問題について

2017年1月2日および1月9日に放送された『ニュース女子』に関し申立人の名誉毀損に係る放送倫理上見過ごすことができない問題点があるため、以下その点について指摘する。

(1) 第一に、申立人への取材がなされていないことが明らかであるにもかかわらず、考査において問題とされていない点である。

『ニュース女子』は「持込番組」で、実際に番組を企画、制作したのはTOKYO MXではない。しかし、その場合でも放送責任を負うことは、TOKYO MXも認めている。TOKYO MXは、本件放送について考査を通した理由として、今回は取材しなくても別の機会取材すればよい、制作に関与していないため考査で取材内容のすべてを判断できるわけではない、そして、番組として珍しく現地取材に行っている、それなりに取材をしたものと信じた旨を主張している。

しかし、「別の機会」に申立人や「のりこえねっと」に取材をした事実は示されていないし、そもそも一般視聴者は、本件放送を完結したのものとして見てさまざまな判断

をするのであって、「別の機会」まで判断を留保するわけではない。また、考査で取材内容をすべてチェックできるわけではないのは当然のことで、それを理由に、申立人への取材が行われていないことが明らかであるにもかかわらず、考査においてこれを不問に付すことはできない。珍しく取材を行ったというだけで、番組の内容に裏付けがあると信じたという理由に至っては、考査の責任放棄と言わざるを得ない。

報道に当たっては、原則として、報道対象者に報道の意図を明らかにして取材をすることが必要であり、このことは委員会が再三にわたり指摘してきたことである（委員会決定第51号「大阪市長選関連報道への申立て」等）。「放送倫理基本綱領」では「放送は、意見の分かれている問題については、できる限り多くの角度から論点を明らかにし、公正を保持しなければならない」、「報道は、事実を客観的かつ正確、公平に伝え、真実に迫るために最善の努力を傾けなければならない」と定めている。すでに述べたとおり、企画、制作に関わっていない「持込番組」であっても、「放送責任が当社にあることは承知しております」とTOKYO MXは自らの責任を認めている。そして「持込番組」においてこそ、考査はその放送責任を果たす唯一の機会として適正な対応が強く求められる。

ところが、ヒアリングによれば、今回の考査はテロップやナレーションが付加されていない部分がある未完成の状態で行われたもので、申立人への取材を一切行っていない点を不問に付したまま、「特定の人物などへの誹謗中傷や放送禁止用語の有無を含む法令・放送基準上の問題、事実誤認がないかを確認したところ、特段の問題がなかった」と判断して、そのまま放送が行われたとのことである。

以上のような考査におけるTOKYO MXの対応は、考査部門の責任はいうに及ばず、放送局全体の「持込番組」への対応という観点からも、放送倫理上の問題があった。

(2) 第二に、考査において、人種や民族を取り扱う際に必要な配慮がなされていない点である。

TOKYO MXは、民放連の放送基準が私たちの一番のバイブルだとしていたが、その「日本民間放送連盟 放送基準」第1章人権(2)は、「個人・団体の名誉を傷つけるような取り扱いはしない」、同(5)は、「人種・性別・職業・境遇・信条などによって取り扱いを差別しない」、また第2章法と政治(10)では、「人種・民族・国民に関することを取り扱う時は、その感情を尊重しなければならない」と定めている。にもかかわらず、考査においてこれらの点に関する配慮がなされていなかった。

1月2日に放送された『ニュース女子』では、過激で犯罪行為を繰り返すものと描かれた反対運動と結びつけて、「朝鮮人はいるわ、中国人はいるわ」、「親北派ですから」などと特定の国籍や民族的出自を論じ、申立人が在日韓国人であることに関連して、

人種や民族を取り扱う際に必要な配慮を欠いていたと言わざるを得ないものであった。さらに1月9日に放送された『ニュース女子』では、冒頭で「『ヘイト』『捏造だ』と抗議殺到」、「大炎上」などとして、人種や民族の取扱に配慮を欠いた前回の放送を取り上げたにもかかわらず、そのような配慮を欠いた点について触れることもなく、「まあ、盛り上がっているという事ですよ」とMCの長谷川氏が総括して冒頭部分を終えるなど、上記の「日本民間放送連盟 放送基準」を守ろうとする姿勢が欠けていたと言わざるを得ないものであった。このような放送内容について問題としなかったTOKYO MXの考査のあり方は、放送倫理上問題があった。

### Ⅲ 結論

表現の自由の観点から、異なる立場を批判する自由は保障されなければならない。しかし、放送局が番組の考査において、番組中で展開される批判の根拠となる事実が真実であるかどうか、また、適切な取材が行なわれたかどうかを確認しないまま放送を行うことまでが許されるものではない。

委員会は、TOKYO MXによる本件放送が申立人の名誉を毀損したと判断した。そして、その原因のひとつに放送対象者に対する取材を行わなかったことがあり、その問題点について容易に考査で指摘できたにもかかわらずこれを怠り、「特段の問題が無かった」とした点、および、人種や民族を取り扱う際に必要な配慮を欠く放送内容について考査において問題としなかった点において、番組が「放送倫理基本綱領」や「日本民間放送連盟 放送基準」に適合するかどうかの検討を考査において十分に行わないまま放送したものと云わざるを得ず、放送倫理上の問題があると判断した。

TOKYO MXは、「持込番組」についても放送責任があることを申立て当初から認め、その後、新たな考査体制も整備しつつあるということではあるが、委員会は、TOKYO MXに対し、本決定を真摯に受け止めた上で、本決定の主旨を放送するとともに、人権に関する「放送倫理基本綱領」や「日本民間放送連盟 放送基準」の規定を順守し、考査を含めた放送のあり方について局内で十分に検討し、再発防止に一層の努力を重ねるよう勧告する。

## IV 放送概要

苦情の対象となった番組の概要は、被申立人から提出された同録DVD等によると以下のような内容である。

### 『ニュース女子』 2017年1月2日の放送内容

発言者 ナレーション	発言内容	テロップ等
長谷川幸洋氏 吉木りさ氏 長谷川氏	<p>↓冒頭の挨拶 (特集該当部分37秒)</p> <p>今回取り上げるのは、沖縄米軍ヘリパッドの建設問題でございます。</p> <p>昨年11月頃の機動隊の「土人発言」報道以降、ニュースがちよっとぼったり途絶えてしまったんですけれども、はい。</p> <p>そこで、今ヘリパッド問題、一体現場では何が起きているのか、軍事ジャーナリストというよりは、軍事漫談家、井上和彦さんが沖縄に行って、取材してきてくれました。早速VTRを見ていきたいと思えます。</p>	<p>沖縄・高江ヘリパッド問題</p> <p>沖縄・高江ヘリパッド問題 今はどんな状況になっている？ 軍事ジャーナリスト 井上和彦</p>
井上和彦氏 ナレーション スタッフ ナレーション	<p>↓VTR部分 (8分)</p> <p>めんそーれ。井上和彦です。今日はですね、沖縄にやって参りました。実はですね、今大変話題になっております、高江ヘリパッドの建設現場で過激な反対運動が行われているということで、ちょっとこの現場がどのようになっているのか、取材をするためにやって参りました。それでは、行って参ります。</p> <p>マスコミが報道しない真実。</p> <p>カメラ回して</p> <p>いきなり、デモ発見。</p>	<p>12月某日</p> <p>ロケ地：沖縄 めんそーれ</p> <p>「土人発言」以降報道が無くなった高江は今、どうなっている・・・？</p> <p>井上和彦沖縄緊急調査 マスコミが報道しない真実</p> <p>緊急調査！！マスコミが報道しない真実</p> <p>沖縄ヘリパッド問題の「いま、(画面左上、VTR部分最後迄)</p>

井上氏	<p>いました、いました、いました、いました。反対運動の連中がですね、カメラ向けてるとですね、あいつだあいつだみたいな感じでちょっとこっちを見えています。</p> <p>この辺の運動家たちが襲撃をしに来るということを言っているんですよ。</p>	井上さんは反対派にとって有名人
ナレーション	井上さん、このまま突っ込んで襲撃されないんですか？	
スタッフ	近く行く？危ない、これ近づいたら危ない、危ない。	
ナレーション	井上さん自ら取材交渉へ・・・しかし。	取材交渉
ナレーション	このままだと危険と判断し、いったん撤収。	このままだと危険と判断 ロケ中止
井上氏	近づくとね、一人、二人立ち上がって、そして敵意をむき出しにしてきて、かなり、あの、緊迫した感じになりますんで、ちょっとこのあたりではい、止めておきます。	
ナレーション	そんな状況の中、再び緊迫した現場へ。元祖反対派が集まる、普天間基地へ向かった。	(沖縄地図) 那覇市、高江、 普天間基地に印
井上氏	えー、米海兵隊普天間基地へやって参りました。実はね、これ普段ならひどい状況になって。	基地の外の反対派による フェンスへの抗議活動
井上氏	ちょっと、どうなっているのかなと思って色々と地元の方に聞いてみると、なんとですね、ここで反対運動をやっている人たち、土日お休みのようなんですよ。	車道を横断し罵声を浴び せる活動家  基地の外の反対運動の人 達は土日休み

井上氏	週休2日のようですね。	週休2日
ナレーション	ちなみに次の朝、ちゃんと出勤していた反対派の皆さん、お疲れ様です。	翌朝AM6:12 きちんと月曜から出勤の 基地の外の反対運動する 活動家の皆さん
井上氏	もう一つの理由は、この辺の反対運動の人達がどうやら高江のヘリパッド建設地の方に集中投入されているということです。	基地の外の反対運動の活 動家達が高江ヘリパッド 移設反対デモに集中投 入!?
ナレーション	とにかく反対派の人達は高江に集結し、緊迫した状態に。	高江に大移動!?
ナレーション	そして、井上さんが次に向かったのは。	(沖縄地図)
井上氏	名護市、キャンプシュワブ。 うわ、なんなんだこれ。ブルーシートにテント、 非暴力徹底抗戦、沖縄つぶしを許さない、うわー。 定年を過ぎたような人たちがばかりですよ。	那覇市、名護市、高江に印  定年過ぎた人たちばかり
ナレーション	そう、反対派の過激デモを支えるのが彼ら「シルバー部隊」。万一逮捕されても生活に影響の少ない65歳以上のお年寄りを集め、過激デモ活動に従事させているという。	過激派デモの武闘派集団 「シルバー部隊」 逮捕されても生活の影響 もない65~75歳を集 めた集団
ナレーション	次々に高江に向かう機動隊。	次々に高江に向かう機動 隊
ナレーション	我々の気分も盛り上がってきたのだが・・・。	いざ!高江へ!!

井上氏	二見杉田トンネルの手前までやってきたんですけれども、ここはですね、辺野古よりさらに北の方に来たところなんですけれども、実はですね、このトンネルをくぐって行きますと、米軍基地の高江ヘリパッドの建設現場ということになります。実はここへ来る前に方々から、今ここはちょっと我慢してほしいと。	(沖縄地図) 那覇市、二見杉田トンネルに印 トンネルの先がヘリパッド移設現場  当日高江ヘリパッド移設現場は過激デモで危険な為ロケ中止の要請が・・・
ナレーション	高江に向かっているロケの途中、地元関係者から、高江ヘリパッド建設現場が緊迫してトラブルに巻き込む可能性があるので、今回の撮影を中止すべきだとの要請があり、残念だが井上さんにはロケを断念してもらうことに。	井上さんにはロケを断念してもらうことに・・・
井上氏	このトンネルの手前で、私は、はるばる羽田から飛んできたんですけど、足止めを食っているという状況なんですよ。	
ナレーション	反対派の暴力行為により、地元の住民でさえ高江に近寄れない状況。 はたして現状はどうなっているのか。地元に住んでいるこの人に聞いてみた。	反対派の暴力行為により高江ヘリパッドに近寄れない はたして高江はどんな状況・・・？
依田啓示氏	12月20日の返還に伴ってですね、今は大詰めに なっているものですから、抗議団体がもう今、命が けで止めてやろうということで先鋭化しちゃってる んですね。対立がね。	依田啓示さん 12月20日に米軍北部 訓練場の約4千ヘクタ ールを返還
ナレーション	警察でも手に負えない高江ヘリパッド反対デモ運 動。地元の人でも泣き寝入りするこの状態。	抗議団体が命がけで止 めてやろうと先鋭化して いる 警察も手に負えない高 江ヘリパッド移設反対デ モ運動

依田氏	<p>僕ら村民の日々の生活が一切止まってしまうくらい、</p> <p>公道にどンドン車を違法に駐車して何十台も重ねて対向車線に止めたり、</p> <p>普通に自分の畑に行きたい人も通れないとかね。</p>	<p>村民の日々の生活が止まってしまうくらい</p> <p>公道に違法駐車して道路を封鎖する反対派の活動家</p> <p>普通に自分の畑に行きたくても通れない</p>
井上氏	救急車も止めたという話もありますが本当ですか？	過激派が救急車も止めた？
依田氏	それはあります。防衛局、機動隊の人が暴力を振るわれているので、その救急車を止めて現場に急行できない事態がしばらくずっと続いていたんですね。	機動隊員の人が暴力を振るわれているのでその救急車を止めて現場に急行できない
井上氏	無秩序な状態が。 テロリストみたい。	テロリストみたい
依田氏	僕はテロリストと言っても全然大げさじゃないと思います。	僕はテロリストと言っても全然大げさではないと思います
ナレーション	なぜ、後先考えず犯罪行為を繰り返すのか。その裏には信じられないからくりがあった。	なぜ犯罪行為を犯すのだろうか？ そこには報道されない真実が！！
ナレーション	その事実を知る人に会うため、我々は辺野古に向かった。	ラジオDJボギー手登根
井上氏	今日、 <sup>てとこん</sup> 手登根さんから、驚くべきものをもってきていただいたんです。連合会館の2階大会議室で、東京で配られていたんです。びっくりしたのがね、ここに韓国の方ですよ、確かね。	(チラシ) ホットケナイ、高江。ないちゃ〜大作戦会議！全員集合 2016年9月9日
井上氏	福島みずほさんまで書いてあるんですよ。びっくりしたのが、5万円あげますって書いてあるんです。	

ボギー手登根氏	あとは自力で頑張ってくださいと。	
ナレーション	いったい何を頑張るといふのだろうか。 さらにこんなものまでが。	いったい何を頑張るのか…？
手登根氏	これ実は、普天間基地の周辺で見つかった茶封筒なんです。光弘という名前と、2万円という金額が書かれています。両方とも同じ材質で同じ場所で見つかっています。	普天間基地周辺で発見された茶封筒 反対派は日当を貰っている！？
ナレーション	これが事実なら、反対派デモの人達は何らかの組織に雇われているのか。	反対派の人達は雇われている！？
ナレーション	さらに、我々の知らない沖縄の情報を教えてくれるこの女性に話を聞いた。	キャスター我那覇真子
我那覇真子氏	例えば、韓国から活動に来たというある男性が奥さんと来て、捕まって中にいたんですよ。  奥さんに対して愛の手紙を書いたと。  手紙がまた新聞記事に写真として載るわけですよ。  新聞社は美しいストーリーに書き換えちゃうんです。この人はやっちゃいけないことをやっているから中にいるはずなのに、それをおいといて、なんて美しい反戦平和運動なんだろう、みたいなことをするんですよ。	韓国から（基地反対デモ）活動に来た男性が奥さんと来て 奥さんに対して愛の手紙を書いた 手紙が新聞記事に載る  沖縄の新聞社は犯罪を美しいストーリーに書き換える！？
井上氏	新手の韓流映画かい！ そんな中で警察の人も大変ですよ。	新手の韓流映画かい！！ 警察の人も大変？
我那覇氏	そうですね。我々からしたら、どうして地元の人達に迷惑がかかっているのに、取り締まらないのって憤りもありますけど。	地元の住民に迷惑がかかっているのに取り締まらない…？

我那覇氏	でも、やっぱり現場の警察官はできる範囲の事は毎日頑張っていて、何よりもその仕事すべき警察のトップはあの方です。翁長知事なんです。	現場の警察はできる限りは頑張っている 警察のトップはあの方です 翁長知事です
井上氏	あの方なんだ。	今回の取材で井上和彦が感じたことは・・・
我那覇 & 井上氏	沖縄を返せ～	沖縄を返せ～
ナレーション	<b>↓スタジオトーク部分（8分27秒）</b> マスコミの報道しない自由のせいで隠された真実を教えてください。	マスコミの報道しない自由のせいで隠された真実を教えてください
杉原杏璃氏	このロケに同行されたスタッフさんが、反対派に拘束されそうになってすごい危なかったというのを聞いたんですけど本当ですか。	沖縄・高江ヘリパッド問題の‘いま、 (画面右上、スタジオトーク部分最後迄)
井上氏	僕がいけない状況で、それでディレクターだけが行って。「とにかくカメラを向けると狂暴化する、襲撃される」と言われたので、それをこそっと一人で行ってカメラを取り上げてもちだそうとしたら、車が挟み撃ちをかけてきたので、彼はとっさに逃げたと言っていた。いきり立っているのです、とにかくどんなことがあってもいいから12月22日の完全返還の日程をとにかくもう延ばそう延ばそうとして、車で行くと前の方に人が出てくるから止まりますよね、止まるとこの辺にこうバーッと妨害されて車が動けないような状況になったりするらしい。	
脊山麻理子氏	なんで、報じないんですか。	なぜメディアは報道しないのか？
井上氏	みんなメディアがほら、反対派を美しき反対運動、平和を愛する人たちの、とやるから、我々がカメラを向けると入れない。	平和を愛する人々と見なしてニュースにしない

長谷川氏	他のメディアもそうなの。井上さんだけなの。	なぜメディアは報道しないのか？
井上氏	他のメディアもそうです。だからほとんど映像が出ないんです。	平和を愛する人々と見なしニュースにしない
脊山氏	ユーチューブとかでたまに上がっていますけど。	
井上氏	だから、実際、地元の人で、依田さんという方は地元の人でもああやって襲撃されて、こついたってことで訴えられて。	
脊山氏	そのボスは日本の方ではないってことですか。	
井上氏	それはわかりません。とにかく韓国人はいるわ、中国人はいるわ、という状況になっている。だから何でこんな奴らが反対運動をやっているのかというので、地元の人には怒り心頭になっているのを聞きました。	誰が何のために反対運動をしているのか？
八田亜矢子氏	彼らの中には彼らなりの正義感があってやっているのかなと今までは思っていたんですけど、どうやらVTRを見てみるとお仕事として反対されている方々が本当にいるのかというのも疑問だし、翁長知事を選出したのも沖縄に住んでらっしゃる方たちでしょ。本当に沖縄に住んでいる人の大多数の意見はどういうところにあるのかなというのは不思議だなと思います。	
井上氏	大多数の人はそんなにね、米軍基地反対という声って聞かないんですよ。	
REINA氏	メディアの報道の仕方も疑問に思うんですけど、機動隊とか警察とか米軍警察含めてなぜ取り締まりがこんなに消極的なのか分からない。	警察はなぜ取り締まらないのか？

井上氏	だから、トップが翁長さんだ、という話を地元の人たちはされるんですよ。もう一つは沖縄の機動隊がやると、顔写真をばらまかれるんです。その人たちの住所、電話番号、家族、お前の嫁さんを強姦してやるぞ！こんなことやられたら精神的に参るんです。	警察はなぜ取り締まらないのか？ 顔写真はじめ、住所や電話番号まで公開され、家族も嫌がらせを受ける
REINA 氏	米軍警察はどうですか。	
井上氏	手を出せないです。日本の警察が対処しているから。防衛施設庁の施設になるわけですから。だから大阪から、あるいは、東京から機動隊が応援に行くわけです。そうせざるを得ない。反対している奴は、大阪から来ている奴なんで、大阪弁同士でやり合っていて、地元の人は何を言っているかわからない。	警視庁、大阪府警からの応援も 当事者無き、虚しい言い争い
吉木氏	不思議な現象ですね。	
井上氏	なんじゃ、お前は、という話して。	
上念司氏	外人部隊同士ということですね。	
井上氏	そんなような状況で。	
吉木氏	ある意味沖縄県民の方は蚊帳の外にされていますよね。	
井上氏	だから、全くわからない。	
須田慎一郎 氏	よく「琉球新報」とか「沖縄タイムス」が記者が拘束された、逮捕されたってことで、報道の自由を侵されたというキャンペーンを張るじゃないですか。完全にそれ以上の状況に井上さんは置かれていますよね。	
井上氏	我々もできるだけ近づこうと思ったんですけど、周	

	りからこれは本当に、要するに我々の車が足止めされることで、工事のトラックが入れないんです。本当に細い道なんで。	
岸博幸氏	この過激な行動をしている奴らのうち、沖縄の地元の人割合は、どれくらいいると思いますか、割合。外から交通費を貰ってきた人間もいっぱいいると思うけど。	反対運動に沖縄県民は何割いるのか？ 県外からの参加者も多数
井上氏	中には教職員上がりだとか、労働組合上りの人間は沖縄の人間として入っているらしいんですけど、地元の人達は全然。	
岸氏	沖縄に昔関わっていた経験から、沖縄の人、みんなアメリカ好きなんです。多分ここまで明確に身体を張った過激な反対をしないから。	
須田氏	そういう意味では、井上さんがさっき取材してくれた、この情報は貴重だなと思ったのは、「のりこえねっと」の辛さんの名前が書かれたビラがあったじゃないですか。この方々というのはもともとは、反原発、反ヘイトスピーチなどを職業的にずーっとやってきて、今沖縄に行っている。その辺は上念さんが筋目詳しいんですけど。	「のりこえねっと」「辛淑玉」は何者？ 反原発、反ヘイトスピーチ、基地建設反対など・・・ 職業的に行っている！？
上念氏	はい、「スキマ産業」です、いわゆるね。何でもいいんです、盛り上がれば。	
八田氏	あの交通費5万円は、財源はどこなんですか。	
長谷川氏	これは誰が出しているの。	沖縄・高江ヘリパッド問題 反対運動を煽動する黒幕の正体は？
井上氏	本当にわからないんですよ。「のりこえねっと」というところに、書いてあって、お茶の水でやっているわけですよ。	

CM 120秒

長谷川氏	普通のメディアは、これを報じようと思えば報じられる。	
井上氏	だから、地元メディアなんかは、歓迎されるわけですよ。地元メディアは。	地元メディアは歓迎される！？
岸氏	彼ら寄りの「琉球新報」は。	
須田氏	井上さんも「琉球タイムズ」ってやればいいじゃない。	地元メディアは歓迎される！？
長谷川氏	地元メディアは、要するにシンパシーがあるから。	反対運動を擁護するから特別待遇！？
井上氏	彼らが勝手に検問するらしいんです。警察が検問するんじゃないで。	
長谷川氏	つまり、あなたは誰ですか。	
井上氏	お前なんかはここに行く権利ないって言われて。	
須田氏	法的に根拠ないでしょ。	
井上氏	ないです。	
須田氏	それさ、乱暴なヤクザでもやらないよ。そんなこと。	
武田邦彦氏	問題は、土人発言が起きた時に、政府は地元側、反対側につきましたよ。土人発言がいけないって言いましたよ。官房長官が言いましたよ。	反対運動は政府が公認した！？
八田氏	それは、事実を知らない人が多いからではないんですか。	

武田氏	そんなことないんだって、官房長官から何からみんな知ってたもの。	
須田氏	それは、歴史的経緯があつてね、こういうことなんですよ。基地の移設だとか、開設だとか、工事だとか、埋め立てだとかっていう工事をやる時に必ず陸路から入ってくるわけですよ。それを身体を使って妨害されると必ず過去、工事をストップされてきたという経緯がある。その過去の経緯があるから、あまり刺激したくない。刺激するとかへったくれもないんだけど、あの状況を見ると。だから中央にいると刺激したくないという意識が働いちゃうんじゃないかなと思いますね。	反対運動は政府が公認した！？ 刺激しないための大人の対応だった？
長谷川氏	でも、ちょっと聞きたいのは、お金ですよ。5万円日当出すなんて。これは誰が出しているの。	反対運動の日当は誰が出している？
井上氏	本当にわからないんですよ。「のりこえねっと」というところに書いてあつて、連合会館で、お茶の水でやっているわけですよ。だから、東京から、そういう反対派の人達、さあ一緒にみんなおいで5万円あげるからということで、格安の、格安のチケットで行けば、そりゃ行けますよね。	東京・お茶の水で集合、出発？  反対運動の日当は誰が出している？
須田氏	辛さんっていうのは在日韓国・朝鮮人の差別ということに関して戦ってきた中ではカリスマなんです。ピカイチなんです。お金がガンガンガン集まってくる。	「のりこえねっと」“辛淑玉,, は差別と戦うスペシャリスト
杉原氏	ちょっと分かんないんですけど、中国が反対する理由は、やっぱり沖縄にアメリカ軍がいなくなって欲しいというのはわかるんですけど、韓国がそうやって沖縄にこだわるのは何で。	韓国人はなぜ反対運動に参加する？
上念氏	親北派ですから。韓国の中にも北朝鮮が大好きな人がいる。	親北派のため、米軍基地の建設を妨害している

藤井厳喜氏	パククネ反対デモだってチャイナの影響力や北朝鮮の影響力を受けた人たちが主力で煽っていることは確かなんです。	
岸氏	この無法地帯のところに、武田先生がおっしゃったように、ちょっと官邸弱腰だよなど。それは別にこういう問題だけではなくて、こういう無法地帯に年間3000億円の沖縄振興費が流れているわけです。これがいかかわしい用途に使われていることも結構あるんです。既得権益化して。	無法地帯に沖縄振興費3000億円の一部分が・・・
長谷川氏	この手の反対運動で例えばちょっと怪我人がでるとか、ましてや死者がでるとか、そんな話にでもなったら、それこそ火がついてしまうからね。	
井上氏	だから、結局我々が行けなかったのも繰り返になりますけど、行くことによって僕らが加害者になるわけじゃなくて、被害者になっても、そこで捜査のためにトラックが。	
長谷川氏	それでまたもめると。	
井上氏	トラックが、動けない状況になってしまう。	
須田氏	飛んで火にいる夏の虫になっちゃうわけだ。	
長谷川氏	井上さん、御苦労さまでした。 また機会があったら是非。	
	*スタジオ部分ここまで。	

『ニュース女子』 2017年1月9日の放送内容

発言者	発言内容	テロップ等
長谷川幸洋氏	↓ 2日放送に関するスタジオトーク (7分20秒) さて、今週の気になったニュースなんですけど、2日から『ニュース女子』がね、ツイッターで大炎上！してるんです。井上さんのルポの中で、ある「のりこえねっと」というんですけど・・・この右側のチラシを紹介したんですけど、この中にこの団体が市民特派員を沖縄に派遣しようとして、ついては航空機代5万円を差しあげますとあって、5万円で動員してんじゃないかという趣旨の事をレポートした。	ニュース女子に「ヘイト」「捏造だ」と抗議殺到 (画面右上、トーク部分最後迄) <画面> 左 市民特派員応募用紙 右 ないちゃ〜大作戦 会議 チラシ 「5万円貰ってない！」 「手弁当」だと大炎上
武田邦彦氏	これは井上さんが作ったやつ。	
井上和彦氏	私は作ってません！私は作っていないけど向こうの人が・・・	軍事ジャーナリスト 井上和彦
長谷川氏	そしたらさっき前に出てるとおもいますが、ツイッターでね、要するに5万円でデモ隊を動員したんじゃないかみたいに伝えたこの番組はけしからんと、それでワーッと来たわけ。	「5万円貰ってない！」 「手弁当」だと大炎上 1月5日(収録日)までの抗議に対し検証しています。
西川史子氏	でも、その通りじゃないですか。	
長谷川氏	でも、デマだっていわれたの。5万円くれるのはデマだって。	
町田彩夏 & 西田藍氏	へえー、デマなの。	
井上氏	いやデマじゃないですよ。だって地元の人にインタビューして、あの紙に書いてあったの。	

西田氏	5万円貰わないと一般人は行けないから別に何が悪いのかと思っちゃたんですけど。	「5万円貰ってない！」 「手弁当」だと大炎上 1月5日（収録日）までの抗議に対し検証しています。
武田氏	僕も同じ意見。あなたに先越されたけどさ。	
西田氏	沖縄に行きたいと思う市民運動家の方たちが、一般人そうですが、行けてないですよ。	5万円貰うことの何が問題なのか？
武田氏	5万円貰うのは気が引けてるみたいよ。ツイートした人はね、なんか5万円貰う事に気が引けてる。	
井上氏	手弁当だと、自分達は何ももらっていないという人まで出てきて、それを否定するから。いや、いいんですよ別に。貰おうが何しようが。	
吉木りさ氏	でも、本当に私たちのツイッターにも結構来ましたね。お前たちは何てことを言ったんだ。俺たちはどんな気持ちでデモをしているのか分かっているのかって。	
勝谷誠彦氏	知るか、そんなこと。勝手にやってるんだから・・・井上さんさ、俺知りたいのはこの5万円の出どころ。財源は何なの。	気になる5万円の出所は？
井上氏	財源がね問題だと思うんですよ。色々な基金のようなものもあるだろうし、よく分かんないよ。だけど1人5万円てね。	
長谷川氏	この間、放送した番組でも私がそれを再三聞いたんですよ。これ、はっきりしないね。市民団体で「のりこえねっと」というんでしょ？それなりに寄付は集まっているかもしれない。	気になる5万円の出所は？ 抗議側は「多くは平和を愛する人々からの寄付だ」と反論。何処からの寄付！？

武田氏	やましい事してないんだからちゃんと出せばいいじゃないね。	中部大学教授 武田邦彦
末延吉正氏	今までの運動のケースでも、実は政治資金規正を後でやると、政治家の側からそういう市民団体に出たケースが菅直人さんとかあったよね。だから、色々な組織を作って運動されている場合、お金は色々な所からやって来るから、長谷川さんはジャーナリストだからちゃんとそれを知りたいというのは大事だと思うよ。	ジャーナリスト 東海大学教授 末延吉正 気になる5万円の出所は？
須田慎一郎氏	そもそもね、このパンフレットが偽物だとかでっ上げだとか言うんなら分かるんだけど、だってこれ書いてあるじゃない。そもそもここに。	経済ジャーナリスト 須田慎一郎  <画面>
長谷川氏	この左の方の字、これ番組で初めて出すと思うんだけど要するに同じ事でしょ。この「のりこえねっと」が募集している紙ですよ。	左 市民特派員応募用紙 右 ないちゃ〜大作戦 会議 チラシ
井上氏	もともとこれはお茶の水の連合会館で、9月9日に集会があって配られた物なの。そこに5万円差しあげますと交通費相当、飛行機代相当のと書いてあるので。だけど、お正月の（番組の）批判はとにかくネトウヨ、ヘイト、レイシストというような言い方で彼らの三種の神器みたいなものですよ。	「ネトウヨ」「沖縄韓国ヘイト」「レイシスト」
杉原杏璃氏	これが世に出る事がいけないって事をいってるの。	
長谷川氏	世に出たってさ、百歩譲ってですよ、本当に5万円出て送ったって、別にだからどうなの？て話だよ。	5万円貰ったっていいじゃない
井上氏	その通りだと思う。	

西田氏	ここに書いてありますよ。5万円を支援します。あとは自力で頑張ってください、って書いてある。	
長谷川氏	何の問題もない。	
勝谷氏	ただ、これ特派員といってるんですね。元特派員としては非常に腹が立つ。これ1000字書けばいいだけ。この原稿料高いね。400字1枚2万円だよ。つまり、1000字なんかでこの深い問題を書ける訳がないわけですよ。つまりは1人でも多くの人間を動員しようという事が本当の意図でしょ。違いますか。	コラムニスト 勝谷誠彦  動員？特派員？どっち？
長谷川氏	勝谷さん、この原稿料破格に高いよ。私の「現代ビジネス」のコラムでもそんなに貰えない。	
井上氏	あとは私が二見のトンネルの手前で引き返したと。そこから30分行ったところに高江のヘリパッド基地があるんですけど、なぜそこに行けなかったかという。やっぱりいろんな人からやめなさいと。実は公安調査庁が出しているこういう資料があるんです。ここに「内外情勢の回顧と展望」とあって平成27年の段階で出ているやつにどう書いてあるかという。在沖米軍基地撤去に向けた運動に取り組む反対派住民団体などの主張を日本国民の政府批判の声として世論戦での材料に利用するとともに、琉球独立勢力に接近するなど、日米同盟分断や尖閣諸島領有権問題での揺さぶりを企図した動きも・・・。	現地の被害者から「今は危険過ぎるから行くな！」と言われて引き返したあのトンネルの向こう側  公安調査庁も把握している 基地反対派周辺の危険な動向
西川氏	何を言っているのか全然分からない。	
井上氏	中国がこういう米軍基地反対運動の人に接触していると、近づいているという事が、既に公安の分析の中にもあるんです。	

須田氏	この公安調査庁というのは法務省の外局ですからね、要するに日本のお役所が今、井上さんが言った事を正式に認めている。	
長谷川氏	ただね、僕ね、残念だったのは、是非あのトンネルの向こう側に行って頂いて、ボカスカ殴られるんでもなんでもやって、あのトンネルの向こう側を見たかったな。	トンネルの向こう側が見たかった
勝谷氏	それより、俺、残念だったのは、今日これを収録しないで、5万円貰って俺が行ったよ。潜入で！	勝谷誠彦が潜入調査！？
須田氏	潜入にならないだろ、この顔だったら。	
勝谷氏	二人で行く！	潜入！？
末延氏	二人で行ったらね、ヤラせていわれるよ。	
長谷川氏	こういう事を報道すると、こういう風に波風騒いで恫喝もされるんだということがよく分かった。	他局が全く報道しない気持ちは分かりました
勝谷氏	メディアは波風騒ぐのが一番いいんです。いい番組だね、その通りだね、というのが一番つままない。	お行儀のいい番組
一同	その通り。	
勝谷氏	もめればもめるほど話題になってみんなが真剣に考えるんだと。	真剣に考える契機になれば本望です
武田氏	このツイッターの人は恩人だね。僕らの。	
長谷川氏	お休みの間にいろいろ騒ぎになりましたけれど、まあ、盛り上がっているという事ですよ。	これからも皆さんと議論を深めていきたいと思えます

## V 申立人の主張と被申立人の答弁

提出された書面およびヒアリングによると、双方の主張と答弁は以下のよう  
に要約できる。

	申立人	被申立人
名誉毀損	<p>■申立人についてあたかも「テロリストの黒幕」として基地反対運動に資金を供与しているかのような情報を摘示し、また、申立人が外国人であることがことさらに強調されるなど人種差別を扇動するものであり、申立人の名誉を毀損する内容であることは明らかだ。</p>	<p>■申立人の主張は本件放送の内容を独自に解釈し、自己の名誉を毀損するものであると主張するものであり、理由がないことは明らかだ。</p> <p>■仮に申立人の主張する通り、本件放送が、申立人の社会的評価を低下させる事実の摘示を含むものであったとしても、かかる事実は真実であるから、いずれにしても、名誉毀損は成立しない。</p> <p>■沖縄基地問題において、反対運動の状況が公共の利害に関することは明らかであり、これまで他のメディアで紹介されることが少なかった「声」を現地に赴いて取材し、伝えるという意図で制作されたものであるから専ら公益を図る目的に出たものである。</p>

<p>名誉毀損 ①「職業的」との表現</p>	<p>■「反原発、反ヘイトスピーチ、基地建設反対など・・・職業的に行っている!？」という上記テロップの発言とともに、申立人の活動について『スキマ産業』です。なんでもいいんです。盛り上げれば」と申立人を誹謗する。申立人は上記活動を含め、これらの活動について金銭を得たことはなく、職業的に行っているとの事実はない。</p>	<p>■申立人は、「のりこえねっと」を主宰する者で、反原発、反ヘイトスピーチの活動に積極的に、反復・継続して従事しており、現在は沖縄の基地問題等にも取り組んでいるという事実を摘示するものに過ぎず、これらの事実摘示が直ちに申立人の社会的評価を低下させるものではない。</p>
<p>名誉毀損 ②「黒幕」との表現</p>	<p>■本件放送は、高江でのヘリパッド建設に反対する住民を「テロリスト」「犯罪者」とし、申立人がテロ行為、犯罪行為の「黒幕」であるとの誤った情報を視聴者に故意に摘示した。</p> <p>■出演者の発言とテロップから、本件放送が、申立人がヘリパッド基地反対運動を扇動している「黒幕」だとの事実を断定していることは明白である。</p>	<p>■申立人は、「本番組は、高江でヘリパッドの建設に反対する住民を『テロリスト』『犯罪者』とし、申立人が、テロ行為、犯罪行為の『黒幕』であるとの誤った情報を視聴者に故意に摘示した」とも主張するが、本件放送には、このような内容は一切含まれておらず、本件番組のどの表現を指したものであるか全く不明である。</p> <p>■「のりこえねっと」と記載されたチラシには交通費5万円を支給する旨の記載があるものの、ヘリパッド問題の反対運動を扇動する「黒幕」は不明であるとの事実が摘示されているのみで、申立人が当該反対運動を扇動する黒幕であるとして一般視聴者が受け取ることは困難である。</p>

<p>名誉毀損</p> <p>② 「黒幕」との表現</p>	<p>■「ないちゃ～大作戦会議」で「みんな捕まって下さい」と発言したことは皆で捕まろう、それでも頑張ろうという思いでいった。だから、調子に乗った。</p>	<p>■仮に、申立人が「黒幕」であるとの事実が摘示されていると解したとしても、平成28年9月9日、連合会館2階大会議室で開催された「ホットケナイ、高江。ないちゃ～大作戦会議！全員集合」での講演で申立人が、高齢者らに対して「爺さん、婆さんたちは向こうに行ったら、ただ座って止まって嫌がらせをしてみんな捕まって下さい」旨述べたことは、高江のヘリパッド建設現場に行って建設を妨害する等の違法な反対運動を行うように積極的に働きかけていることは明白で、申立人が、ヘリパッド建設に対する反対運動を扇動している「黒幕」であるということは事実である。</p>
<p>名誉毀損</p> <p>③ 「日当」との表現</p>	<p>■MC長谷川氏の「ちょっと聞きたいのはお金ですよ」という発言に続き「反対運動の日当は誰が出している？」というテロップがあり、その後の井上氏の「これ、本当にわからないんですよ。だからこれ、『のりこえねっと』というところに、書いてあって、お茶の水でやっているわけですよ。東京から、さあおいで、5万円あげるから、ということで格安の、格安のチケットで行けば、そりゃ行けますよ」との発言は、全て申立人が反対派にお金を出しているとの事実を摘示していることは明白であり、これらの発言とテロップは金銭で動機付けられた反対運動参加者に「日当」を出して雇っているのは申立人であるとの事実を摘示している。</p>	<p>■一般の視聴者からすれば、本件放送では『のりこえねっと』という団体が5万円の交通費を支給するというチラシがあるが、その財源は不明であるという事実が摘示されているものと受け取るのが通常であって、これにより「全て申立人が反対派にお金を出している」との事実や「金銭で動機付けられた反対運動参加者に『日当』を出して雇っているのは申立人である」との事実が摘示されているとする申立人の主張は、論理の飛躍も甚だしい独自の解釈というほかなく、到底認められない。</p>

<p>名誉毀損</p> <p>③ 「日当」との表現</p>	<p>■井上氏は、お金の出所がわからないと          知っているだけであって、須田氏は、その          カリスマ性で金を集めているという          ことをはっきり知っている。そして、申          立人が集めたお金が現場のテロリスト、          犯罪者に送られている、かのように放送          されている。</p>	<p>■仮に、反対運動参加者に「日当」を出          して雇っているのは申立人であるとの          事実が摘示されていると解したとして          も「ないちゃ～大作戦会議」での申立人          の「一生懸命これから稼ぎます。なぜな          らば、私もう体力無い」等との発言は、          違法行為を伴う活動への資金を申立人          自ら工面し、提供する旨の表明にほかな          らず、申立人が反対派にお金を出してい          るということは真実というほかない。</p>
<p>放送倫理上の問題</p>	<p>■本件放送は、およそ関係者に一切の取          材をせず、明白な虚偽を織り交ぜて故意          に取材を怠ったまま報道を行っている。</p> <p>■最も大きな不公正というのは、この制          作会社自身が現場の人間、のりこえねっ          との人間、そして申立人に対して、何ら          取材していないと自ら認めている点だ。          対立する意見がある事象について片方          の意見のみ聞いて報道すること、これが          不公正だ。そして、少なくともMX自体          も私に聞くべきだ。</p>	<p>■考査において、本件放送について法          令、放送基準上の問題、事実誤認がない          かどうか確認したところ、特段の問題が          無かった。</p> <p>■基地反対派や申立人らに取材しなか          ったことについては、これは一つの角度          から見た番組なので、違う角度からの番          組が必要になると考えており今回は取          材しなくても、別の番組や機会で取材す          ればよいだろうと判断した。</p> <p>■番組として珍しく現地取材に行っ          ているので、それなりに取材をしたものと          信じた。</p>

<p>放送倫理上の問題</p>	<p>■在日韓国人である申立人のナショナリティに言及したうえで、反対運動を金銭で雇い入れ、扇動しているのが「従北派」の韓国人であり、北朝鮮等が反対運動の手引きをしている等の印象を視聴者に与え、もって申立人の社会的評価を貶め、申立人の名誉を侵害した。</p> <p>■現実に申立人の名前はチラシに載っている。そういう名前の中から、あえて韓国籍であると、韓国人であることを表示して、そして、そのような韓国人がなぜ、運動に参加するのか、と言っている。これは当然申立人のことも含まれると、一般視聴者が見れば、そのように感じると考えている。</p>	<p>■そもそも本件放送はそのような印象を視聴者に与えるものではない。申立人はこのような主張を抽象的に展開するのみで、なぜ本件放送がそのような印象を与えるものであるといえるのか、具体的な説明を一切していない。</p> <p>■申立人が指摘する出演者の「韓国がそうやって沖縄にこだわるのは何で」という発言に対する上念氏の「親北派ですから。韓国の中にも北朝鮮が大好きな人がいる」等の発言は、テロップを含めて発言者の一般論としての見解が述べられたものである。申立人が、そのような人物であるとは何ら摘示していない。</p>
<p>本件放送による申立人の被害</p>	<p>■地上波のMXで流されたということが今までインターネットの中だけでやられていたものとは一線を越えている。</p> <p>■具体的な被害としては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放送による精神的な苦痛</li> <li>・放送後の脅迫や嫌がらせのメール、手紙等</li> <li>・社員研修等仕事の発注量の減少</li> <li>・社会的評価の低下等</li> </ul> <p>かつてとは程度、量が違い、多岐にわたる被害があった。</p>	<p>■申立人は、本件放送の以前から、高江のヘリパッド建設反対運動への参加をSNS上で呼びかけたことで、批判を受けていた。本番組によって申立人の社会的評価が低下し、これまでに受けたことがないほどの被害を受けたとはいえない。</p>

<p>放送局への要求について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『ニュース女子』の番組内で訂正放送を行い、申立人に謝罪すること。</li> <li>■番組内容の検証を沖縄の実情に精通した者を含めた第三者機関に行わせ、報道番組で報告すること。</li> <li>■申立人に対して、人種差別発言や虚偽情報が流され、名誉を毀損したことを番組で謝罪し、名誉回復を図ること。</li> <li>■今後このような放送が行われないよう具体策を講じ、公表等すること。</li> <li>■検証番組とは別に高江のヘリパッド地域で起きていることを多角的に取材した1時間番組を放送すること。</li> <li>■人権、被差別者の歴史等について学ぶ管理職研修や持込番組であったことに鑑み、営業担当も含めた全社員を対象とした社内研修を行うこと。</li> </ul>	
--------------------	--	--

## VI 申立ての経緯および審理経過

年 月 日	主 な 内 容
2017年 1月 2日	『ニュース女子』で当該特集を放送
1月 9日	『ニュース女子』で2日の放送の反響を紹介
1月20日	申立人、抗議文を被申立人に送付
1月27日	申立人、委員会に「申立書」を提出
4月12日	申立人、被申立人の代理人同士の話し合いが不調に終わる
4月27日	被申立人、委員会に「経緯と見解」を提出
5月16日	第247回委員会で審理入りを決定
5月31日	被申立人、委員会に「答弁書」を提出
6月15日	申立人、委員会に「反論書」を提出
6月20日	第248回委員会で審理
6月30日	被申立人、委員会に「再答弁書」を提出
7月18日	第249回委員会で審理
8月22日	起草委員、論点・質問項目を検討
9月12日	同上
9月19日	第250回委員会で審理
10月17日	第251回委員会でヒアリング、審理
11月15日	起草のための準備会合
11月16日	被申立人、委員会に「ヒアリング補充書」を提出
11月21日	第252回委員会で審理
12月 5日	第1回起草委員会
12月19日	第253回委員会で審理
12月25日	第2回起草委員会
2018年 1月16日	第254回委員会で審理
2月 6日	第3回起草委員会
2月13日	第4回起草委員会
2月20日	第255回委員会で審理、「委員会決定」案を了承
3月 8日	「委員会決定」を通知・公表

放送倫理・番組向上機構 [BPO]  
放送と人権等権利に関する委員会 (放送人権委員会)

委員長	坂井 眞
委員長代行	奥 武 則
委員長代行	市川 正 司
委員	紙谷 雅 子
委員	城戸 真 亜子
委員	白波瀬 佐和子
委員	曾我部 真 裕
委員	中 島 徹
委員	二 関 辰 郎
委員	水 野 剛 也